

幼保連携型 認定こども園の 実践から 見えるもの

第15回

～園内研修に活かそう～

東京家政大学教授 増田 まゆみ

このコーナーは、各地の幼保連携型認定こども園を訪問し、「保育の質」に視点を向け、就学前の保育のあり方について読者の皆さまと共に考えていくものです。その際、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が提示する「教育・保育の基本」にそって考え合うことを大切にしています。各園での園内研修にご活用ください。

子ども・保護者・

地域のかたが

安心できる場として

幼保連携型認定こども園

認定こども園こどもむら

さくらのもり（埼玉県・久喜市）

認定こども園こどもむらさくらのもり

は、「ここにいていいね、いっしょにいていいよね」と心と体の育ちのために」という教育・保育理念のもと、「明るく元気な子」「自分から進んでやる子」「協調性のある子」「心が豊かで優しい子」「自分の想いを表現できる子」の五つを目標に掲げています。

こどもむらさくらのもりは、平成二十四年にゼロ歳から二歳児のための園としてスタートし、平成二十七年に幼保連携型認定こども園となり、現在三歳までの子どもが生活しています。園のすぐ近くには昭和五十年設立のさくら幼稚園（現在は幼稚園型認定こども園）があり、三歳児は幼稚園にあそびに行くなど、日常的に交流がなされています。乳幼児期は、人格形成の基礎を培う大切な時期、子どもはあそびを通してさまざまなことを感じ、考え、学んでいきます。そのため、保育環境を重要なものととらえ、保育室、遊具や玩具など物的環境、園庭環境、また人的環境について、日々の保育のなかで職員同士が話し合い、改善を図っています。

併設の子育て支援センター「森のひろば」は、桜の木々に囲まれ、絵本や子育てに

関する書籍が豊富に取りそろえられている「もりの図書館」など、地域の親子が安心して自由に過ごせる場となっています。

大きな桜の木がある園庭には、虫や花など自然の恵みがたくさんあります。水や土、砂など、さまざまな素材に触れ合うなかで、驚きや、発見など多くのことを学んでいく子どもたち。この時期にしかできない体験を積み重ね、子どもたちが自ら感じ、考えて行動し、生きる力を育んでいくことを大切に、日々の保育を行っています。



幼保連携型認定こども園

教育・保育要領では

「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」

第二章「ねらい及び内容並びに配慮事項」第二「満一歳以上満三歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容」―基本的事項―環境（※新「教育・保育要領」）

こどもむら 理事長 柿沼平太郎氏と、こどもむらさくらのもり 園長 新谷洋子氏に聞く

保育の場は、子ども・保護者・

そして保育者に居心地のよい場に

増田先生 教育・保育理念として掲げていらっしゃる「いっしょにいていいね」に、どんな思いが込められているのでしょうか。

柿沼理事長 子ども、保護者、園に来られる地域の方の親子や地域の方がたはもちろん、職員にとっても居心地がよく、一緒にいることを喜び合えるような園にしていきたいと思っています。

増田先生 重要な点ですね。子ども、保護者等にとって居心地がよい場になるためには、保育、そして保護者・子育て支援を担う職員が居心地のよい職場環境のなかで、安心して、個々の力を発揮できることが基本ですね。個々の力が結集することで、園に求められる多様な機能を果たすことのできる組織になっていくのですね。具体的な取り組みをお話してください。

柿沼理事長 職員が働きやすい職場であることが何よりも重要だと考えています。勤務時間等就労条件も重要ですが、職員が互いに自分の思いを率直に語り、とくに、全体の会議の場だけでなく、日常的に子どもや保護者のことを話し合える雰囲気づくりを心がけています。

増田先生 対話を重ねることは、職員間の信頼関係の構築につながりますね。職員間の対話と共に、保護者との信頼関係を築いていくなかで、とくに配慮されていることをお話しください。

保育の可視化を保護者への 情報提供へ活かす

新谷園長 お迎えの時間などに、子どものようすを保護者にわかりやすく、ていねいに伝えていくことで、よりよい関係づくりにつながっていきたく考えています。

増田先生 玄関に、保育課程でのねらいと共に掲示されていました。子どもの成長を写真やエピソード、そして、保育者の思いなどが記載されています。この取り組みを始めて、職員の意識にどのような変化が見られましたか。

新谷園長 文書だけで保育課程を示しても保護者には伝わりにくく、どうしたらいいか職員会議で話し合いました。そこで、その月のねらいのなかで、保護者と共有したい内容を中心に、子どもの成長の姿をわかりやすいことばで表現してみようと、昨年度から始められました。

保育の可視化は、記録のプロセスで、保育の見直しにつながり、また、玄関に掲示するこ

とをきっかけに、担任同士で話し合う機会も増え、保育に対する共通理解も図られてきています。



2歳児クラスの記録

わが子の成長を実感できる記録に

増田先生 初めての子育てに戸惑いを感じている三歳未満児の保護者からの、育ちのプロセスがわかる情報への反応はどうですか？

新谷園長 自分の子どもが写っている写真を見つりも見られるようになりました。「こんなふうに大きくなっていくのですね」と、わが子の成長を楽しみにしていることが伝わってきます。

増田先生 この記録は、園での子どもの変容する姿を家庭へとつなげる、「育ちの連続性」を具現化した記録だといえますね。

柿沼理事長・
新谷園長から学ぶ!

実践のヒント

「育ちの継続性」を意識した
保育の取り組み

増田先生 五歳児クラスでは、大きな布に絵の具を使って、ダイナミックに、ときに相談しながらこのほり製作に取り組んでいました。子どもたちの自由な発想が活かされた素敵な作品ですね。

柿沼理事長 各クラスでさまざまな作品ができあがっています。一歳児はこのほりの形の色画用紙に、シールをはるなどして、自分だけのこいのほりを保育者と楽しんで作ります。このようにさまざまな経験の積み重ねが、ダイナミックで創造性豊かな作品へとつながっていくのだと思っています。

増田先生 保育の特色のひとつに「掲げられている「育ちの連続性」につながる取り組みですね。

柿沼理事長 乳幼児期の子どもの発達には、月齢差や家庭環境などによっても大きく変わります。



1歳児・5歳児のこいのほり製作の様子



保育者は、その時点での子どもの姿のみをとらえるのではなく、五歳児になったときの姿を見すえて子どもの育ちを継続してとらえ、日々の保育を進めるようにしています。

三歳未満児の保育と子どもの発達に沿った保育環境への工夫

増田先生 三歳未満児の保育を行うに当たって、大切にされていることはどんなことでしょうか。

新谷園長 長時間過ごす子どもなゆつたりと穏やかな環境で生活できることをめざしています。

取材を終えて

職員同士が保育を語り合うことのできる雰囲気なかで、園での子どもの変容を、どうわかりやすく保護者に伝えていくか、その取り組みを通して、保護者の理解とともに、保育の質を高めていくことにつながることを実感しました。また、隣接するセンターの桜の木々の間を保育者の見守りのもと、1、2歳児が友だちと手をつないで小さな虫を見つけたり、樹木と樹木との間のブランコに乗る姿がありました。センターを訪れていた親子がその姿を見て、あとで同じようにブランコに乗る姿が……。日々の保育の営みが地域へと広がっていることも実感できました。



各園でも保育の可視化とその活用を話し合ってください。

そのために、保育者が愛情をもつて子どもたちとの関係性をしっかりと築き、安全な環境を通して、一人ひとりが主体的にあそべる環境づくりを心がけています。室内環境では、本物との出会いを大切に玩具の選定、可動式の棚やテラスなども活用し、小人数による保育を行い、常に子ども一人ひとりの成長発達に見合う環境構成のなかで実践するようにしています。

教えて! 工作マエストロ PART III

第3回

指導: 洗足こども短期大学教授 黒須 和清

工作の材料や作り方、作品を使った壁面構成について、若手保育士さんと工作マエストロ(巨匠)と一緒に学ぼう!

7月にある大きな季節のイベントといえば……。そう!七夕ですね。もともとは女の人の手仕事の上達を天に示して、より向上を願うお祭りだったそうですが、今はいろんな願い事を書きますね。さて、今風の七夕飾りを考えたら、どうなるでしょうか。

七夕リニューアル! 「今風七夕飾り」って?

増田先生 七月といえば、七夕飾り!これは、だいたいどの園でもやる行事でしょう。

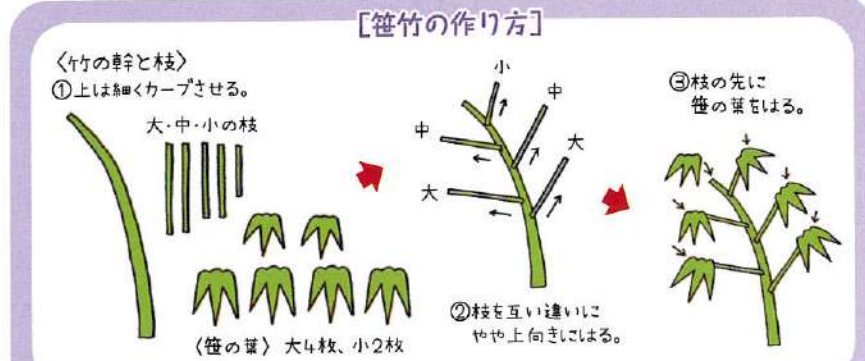
柿沼理事長 短冊に、子どもたちの願い事を書いてもらうのが、楽しみです。

新谷園長 みんなの思いがわかるからね!

増田先生 さて、その短冊を吊するのは笹竹。でも、用意するのはたいへんだよね。近所の竹やぶを持っていくかたに提供していただくか、もちろん通販でも買える時代だけれどね。

柿沼理事長 うちの園では近隣のかたに、大きな笹竹を一本提供していただき、そこにみんなで作る短冊を吊します。

新谷園長 なるほど。でも、本物の笹竹でなくても切り紙で作ってみてはいかが。まず、笹竹の作り方!



新谷園長 これを壁にはって、子どもたちの短冊や七夕飾りをはっていきいね。

増田先生 笹の葉をたくさん作らなくても、笹飾りに見えますね。